

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390201600		
法人名	合同会社総合介護サービス		
事業所名	さくらそう玉島		
所在地	倉敷市玉島勇崎6-8		
自己評価作成日	令和3年9月23日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3390201600-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社One More Smile		
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7		
訪問調査日	令和3年10月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・現在、コロナ禍により面会が出来ていない為、利用者様との関りを増やし寂しさが軽減出来るようレクリエーションやイベント等を企画し行っています。 ・家族の方にも安心して頂けるよう毎月写真入りの通信を送らせて頂いています。 ・看取り対応となった方には、寂しさを与えないよう写真を飾ったり、季節にあった飾りつけをし、細めな訪室、声かけを行っています。 ・利用者様個々の体調や性格など見ていきながら、その人の過ごし方に合わせ家庭的な雰囲気でごして頂いています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>この事業所は、職員の都合を優先するのではなく、時間をかけて利用者の気持ちに寄り添っている。家族が居ない事に対して立腹し、攻撃的になる利用者がある。気持ちが落ち着かない状態だと転倒する危険もあるので、まずは座って落ち着いてもらう。利用者の気持ちが少し落ち着くと、室内を一緒に歩きながら家族を探す。攻撃的になることで、その利用者に対して恐怖を感じる職員もいるが、リーダーは信頼関係を築くために寄り添って欲しいと伝えている。また、服を脱ぐと肌が露出し寒いという理由で嫌がる利用者には、タオルを見せながら服を脱いでもらい、脱いだら直ぐにタオルをかけ、利用者が嫌がることを少しでも避ける工夫をしている。終末期の寝たきりの利用者が寂しくないよう、目に付く位置にイベントの際に移した写真を飾ったり、窓の外に鯉のぼりをあげたり等している。家族が県外在住だった為、食事が減った等の様子をこまめに連絡した。</p>
--

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「私達は利用者も職員も笑顔いっぱいの施設を創ります」という理念のもと、理念教育行っており朝礼では職員全員で唱和し続けている。	理念に掲げる「笑顔」が増えるよう、利用者との関りを増やしコミュニケーションを図っている。その際は、笑顔と明るい声で話しかけている。また、利用者が喜びそうなゲームや料理の計画を練っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍にあり、地域交流の機会が著しく減少しているが通リかかる人への挨拶等でコミュニケーションを図っている。	1階の台所の窓からは通行人がよく見えるので、会釈をしている。また駐車場に車を止める際、歩行者が居れば、必ず挨拶をするよう職員間で徹底している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍にあり、できていないが収束したら見学会等を開き、日常の生活を見て頂きたい。また地域の清掃などには積極的に参加していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍にあり、書面での開催をし意見を頂いている。今後も参加者が増えるよう発信していきたい。	以前は運営推進会議委員に対して、報告書のみを郵送していたが、現在は書面で意見を求めるようにしている。イベント等の写真も添付して欲しいとの意見があった為、次回からは添付する事にした。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明時質問し教えて頂いている。運営推進会議では施設での取り組み等報告した際にも色々な視点から意見を頂いている。	地域包括支援センターの職員に、利用者の入退去状況、施設研修やイベントの報告等を書面で郵送し、事業所の現状を把握してもらっている。不明点等があれば相談し、協力関係を築くよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は道路に面しており車の行き来が多く事故防止のため施錠している。身体拘束について施設内研修を実施し、スピーチロックに重きを置き職員間で周知徹底している。	利用者が、帰宅できない理由は家族を職員に奪われたと誤解し、立腹する事がある。気持ちが落ち着かない状態だと転倒する危険もあるので、まずは座って落ち着いてもらう。その後は、一緒に家族を探しながら事業所内を歩く等、気持ちを汲む対応をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修で虐待について職員間で周知徹底している。利用者様に不快と思われたりする言動について都度注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修を行っている。参加出来ない職員には資料配布し職員間での知識の共通を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に重要事項説明書にて十分に説明を行い、不安な事や疑問に思われている事は説明し対応している。入居後も不明な点があれば、その都度説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍であり、推進会議など参加して頂けていませんが、電話した際要望は聞くようにしている。毎月の通信にて、活動報告している。	家族から居室にひ孫の写真を飾って欲しいと依頼され、冬服と一緒に送ってくれた。早速居室に飾ると、その写真に向かって日々の出来事を話し、「寝るね」と挨拶をしてから就寝している。利用者が広告に掲載されている服が欲しいので、娘に連絡してと言われ対応をした。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現状では、コロナ禍にあり十分ではないが、施設の代表者と会社間で会議を行い、その会議の内容を職員会議にて話し合う場を持っている。	リーダーは職員に楽しく仕事をして欲しいと思っている。そこで、休憩時間等に「最近はどうですか」と尋ね、話しかけられやすい環境づくりに努めている。職員ヒヤリングでも何でも相談しやすいと教えてもらった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全体会議や面談等でスタッフの意見を集め、施設の責任者、管理者が連携して各職員の状況把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月施設内で研修を行っている。外部での研修はコロナ禍であり自粛しているがリモート等での参加は積極的に行うようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前は、外部にて交流を図っていたが、現在は自粛している。収束後は他施設と合同での外部研修に参加できるよう努めていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員間で共有しカンファレンスを行い、本人様の状態等把握しコミュニケーションの中で要望を聞き入れ不安等取り除くよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時にはご家族様の要望や不安を伺い、可能な限りのサービスを行っている。入居後も電話で、要望を聞き入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員間で共有し出来る限り想いに添ったサービスを行っている。看取り希望者の方も視野に入れて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事はして頂いたり、行事・行動を一緒にしたり、その中でコミュニケーションの時間を取り安心して生活できるよう心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度、状態や生活の様子を通信でお伝えし気になっている点は、対策を考え細かく説明している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は面会制限をしている。月に一度の通信にて現状報告などを行っている。	請求書と一緒に、利用者の写真と1か月の状況を書いた手紙を送っている。電話等でも様子を伝えている。面会制限がある為、テレビ電話で面会が出来ると案内をしたが、まだ希望者はいない。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや体操の時間を設け利用者様同士の交流を深めている。職員と一緒に関わることで利用者様同士の関りを増やすようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	次に利用する事業所や病院に情報提供をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の暮らし、生活の意向をその都度聞き取り勘案し、時にはご家族様の意向を確認したり相談しながら、本人様が安心して生活が送れるよう配慮している。	レクリエーション等を実施する時、皆に声は掛けるが参加を無理強いはいしない。片付けや記録の記入よりも、常に利用者の思いを優先に心掛けている。「おはよう」等の挨拶を一人ひとりに声掛け、寄り添う支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の状況、関係者から情報を頂き職員間で情報共有を行っている。新たな情報があればその都度共有するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録にその時の状況、対応などを記録し職員間で把握出来るよう努めている。状態変化があれば、管理者、医師などへの報告、対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状態変化などあれば、モニタリング・アセスメントをし職員への聞き取りや必要時のカンファレンスを行っている。職員からの支援内容への意見を聞きながら介護計画の作成を行っている。	6カ月毎に、短期目標の実施状況と今後の対応についてモニタリングし、カンファレンスを行っている。なるべく多くの職員の意見を徴収したいため、出勤者が多い日に実施している。家族へ介護計画を送付する際は、利用者の現状を記載した手紙も添えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録で日々の状態把握とどのような支援を行ったか記録をしている。その記録を確認し、新たにニーズが発生していれば計画し実施できるよう対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	往診、歯科往診への対応必要時の受診、理容サービスへの対応などコロナ禍でもできる範囲でサービス対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍でもあり、地域との触れ合いが困難な状況であるが今後は、安全を考慮し外出計画など立てていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の往診が定期的であり、ご家族様の了承のもと診察を受けている。又希望の医療機関にも受診・往診などにも対応できるようにしている。	入居時に、重要事項説明書で往診をしてくれる協力医が居ることを説明している。主治医から他科受診を進められたら、家族にも相談しながら適切な医療機関で受診できるよう支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に週1回来てもらい利用者様の健康チェック、相談をしてもらっている。現状報告し可能な対応をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時での情報提供と必要あれば入院先からの問い合わせ対応を行っている。退院時の情報を頂き退院時での留意点などの問い合わせを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取り指針の説明をして、希望を聞いている。又、かかりつけ医とも相談をし、必要に応じて説明をして頂くようにしている。看取りを希望されている方には、主治医と連携をとりながら、看取りの介護計画を作成している。	入居時に、終末期の対応について説明をしている。重度化した場合は、再度家族に看取りの希望を確認し、同意書をもらっている。利用者の状態に変化があれば主治医に伝え、指示を仰いでいる。利用者が寂しくないよう、こまめに居室を覗くなど、最期まで寄り添う支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、入居者の急変時、事故発生した場合には速やかにかかりつけ医、看護師に指示を仰ぐよう職員に周知している。対応・処置が完了後は要点や根拠などの説明・指導を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防訓練、年1回、水害訓練を行っている。非常時には、訓練通りにいかない事が多々あると思い、訓練では、前回の反省を活かし、取り組んでいる。	避難訓練を実施後、職員から反省点を聞き出し記録している。次回の避難訓練実施の際は、前回の反省を基に計画を立てている。昨年のも雨の際には、利用者の介護記録やお薬手帳など、大事な書類を事前に2階に移すなど、水害の訓練にもなった。	運営推進会議で、町内会長に協力要請を行い、協力体制を築く事を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格を把握し、落ち着ける声かけができるよう心掛けている。日常的に趣味等を取り入れ、思い思いに生活を送っている。	トイレや居室の扉は閉めるようにしている。利用者が自ら扉を開けた状態の時は、閉めようとしても本人が空けた状態にして欲しいと言われれば、少し開けるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	水分提供やおもてなし時は利用者様に選んで頂いたり食べたい物を聞いたり出来るだけ望まれているものを提供している。レクリエーションでも本人様がやりたいことを聞き、行事として組み入れている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々に希望される事が違うが、意に沿えるよう個別にレクリエーションをして頂いたり、職員間で決まりを作ったりせず利用者様優先で日常生活のサポートを行うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に一度訪問理容に来て頂き、カットして頂いている。入浴や洗顔後化粧水を付ける事が日課になっている方は、化粧水が無くなればご家族様に連絡している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手作りの日等、利用者様にあった事を無理なく手伝って頂いたり、食べたいもの等聞き入れ喜んで頂けるよう努めている。	木曜日と日曜日は手作り料理の日にして、好みのものを提供している。木曜日が和食なら日曜日は中華にするなど、献立を工夫している。テレビで果物が美味しそうと言え、おやつに提供している。手作りのたこ焼き等は、細かく刻んで原形が分からなくなるのではなく、そのままの形で提供し目の前で細かく刻んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師の指示のもと、利用者様の心身状態を考慮した食事量、水分量を提供し、記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけしなるべく自力で口腔ケアを行って頂き、困難な方は介助にて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりに応じた声掛け、誘導又介助が必要な方には個人の能力を活かす介助を行っている。	頻尿の人、頻繁にトイレに行く必要が無い人等、それぞれに合わせて時間を見計らい、誘導をしている。介助が終われば外で待機しているが、腹圧をかけないと排尿しない場合は、傍らについている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄はトイレを基本とし、パターンを把握して声かけや誘導をしている。未排便が続く時は、バナナや牛乳等提供し調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決めているが拒否があった場合は理由を聞き別日対応する等工夫し気持ちよく入浴をして貰える支援をしている。	拒否の人もいるが、話をしながら風呂場まで誘導をしている。脱衣所までは一緒に来てくれても、入浴することを嫌がる場合は、時間や曜日を変更し無理強いはいしない。湯加減も、好みそうな温度から足に当て、温度を調整しながら本人に確認している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休みたい時に休んでもらったり、体調を考え休息の時間を作っている。夜間帯は就寝時間が異なっているが安心して夜間睡眠が取れるよう、静かで快適な空間を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医、薬剤師から薬の説明をして貰っている。変更などがある場合は、職員間で情報提供している。小さな変化も往診時につたえている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせた作業をして貰ったり、毎月イベントを企画し楽しみにしてもらえるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍であり、外出が難しい為ベランダでおやつを食べたり、感染対策をしっかり行いドライブをしている。	現在はコロナ禍でほとんど外出が出来ていない。ベランダや中庭で、お茶をしたり食事をしたりする等、気分転換を図っている。ベランダにはいつでも出入りが出来るようにしている。ベランダの柵に桜の飾り、そこで花見をした。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望により、お金を持っている方もおり、時々数えて過ごされている。安心して過ごされているので尊重している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様からの要望はないが、ご家族様から届いた手紙やプレゼントを渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月イベントや季節に応じた飾りつけを利用者様と一緒に作ったり、飾ったりしている。	洗面所をリフォームし、いつでも湯がでるようになった。湿度と温度計で管理し、湿度が高い時はドライに切り替えるなど、快適に過ごせるように努めている。編み物をする人が見にくいと言われれば、中庭側の日が当たる場所に座ってもらっている。テレビを見る人が多いので、眩しくないようカーテンを閉めるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆっくりテレビを見たり、休息のためソファで休んで頂いたり、自由に玄関で日光浴が出来るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を希望があれば使用してもらっている。写真やカレンダー等を飾り自分好みの部屋をつくれるようにしている。	入居時に、持ち込んでいる物の具体例を挙げ、使い慣れた物を持ち込んで欲しいと伝えている。位牌とおりんを持ち込んでいる人もいて、気が向いた時に鳴らしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力を共有し、出来る事は見守り、安全にできるようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390201600		
法人名	合同会社総合介護サービス		
事業所名	さくらそう玉島		
所在地	倉敷市玉島勇崎6-8		
自己評価作成日	令和3年9月23日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・現在、コロナ禍により面会が出来ていない為、利用者様との関りを増やし寂しさが軽減出来るようレクリエーションやイベント等を企画し行っています。 ・家族の方にも安心して頂けるよう毎月写真入りの通信を送らせて頂いています。 ・看取り対応となった方には、寂しさを与えないよう写真を飾ったり、季節にあった飾りつけをし、細めな訪室、声かけを行っています。 ・利用者様個々の体調や性格など見ていきながら、その人の過ごし方に合わせ家庭的な雰囲気でごして頂いています。
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3390201600-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社One More Smile		
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7		
訪問調査日	令和3年10月20日		

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「私達は利用者も職員も笑顔いっぱいの施設を創ります」という理念のもと、理念教育行っており朝礼では職員全員で唱和し続けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍にあり、地域交流の機会が著しく減少しているが通る人への挨拶等でコミュニケーションを図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍にあり、できていないが収束したら見学会等を開き、日常の生活を見て頂きたい。また地域の清掃などには積極的に参加していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍にあり、書面での開催をし意見を頂いている。今後も参加者が増えるよう発信していきたい。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明時質問し教えて頂いている。運営推進会議では施設での取り組み等報告した際にも色々な視点から意見を頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は道路に面しており車の行き来が多く事故防止のため施錠している。身体拘束について施設内研修を実施し、スピーチロックに重きを置き職員間で周知徹底している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修で虐待について職員間で周知徹底している。利用者様に不快と思われたりする言動について都度注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修を行っている。参加出来ない職員には資料配布し職員間での知識の共通を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に重要事項説明書にて十分に説明を行い、不安な事や疑問に思われている事は説明し対応している。入居後も不明な点があれば、その都度説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍であり、推進会議など参加して頂けていませんが、電話した際要望は聞くようにしている。毎月の通信にて、活動報告している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現状では、コロナ禍にあり十分ではないが、施設の代表者と会社間で会議を行い、その会議の内容を職員会議にて話し合う場を持っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全体会議や面談等でスタッフの意見を集め、施設の責任者、管理者が連携して各職員の状況把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月施設内で研修を行っている。外部での研修はコロナ禍であり自粛しているがリモート等での参加は積極的に行うようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前は、外部にて交流を図っていたが、現在は自粛している。収束後は他施設と合同での外部研修に参加できるよう努めていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員間で共有しカンファレンスを行い、本人様の状態等把握しコミュニケーションの中で要望を聞き入れ不安等取り除くよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時にはご家族様の要望や不安を伺い、可能な限りのサービスを行っている。入居後も電話で、要望を聞き入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員間で共有し出来る限り想いに添ったサービスを行っている。看取り希望者の方も視野に入れて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事はして頂いたり、行事・行動を一緒にしたり、その中でコミュニケーションの時間を取り安心して生活できるよう心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度、状態や生活の様子を通信でお伝えし気になっている点は、対策を考え細かく説明している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は面会制限をしている。月に一度の通信にて現状報告などを行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや体操の時間を設け利用者様同士の交流を深めている。職員と一緒に関わることで利用者様同士の関りを増やすようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	次に利用する事業所や病院に情報提供をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の暮らし、生活の意向をその都度聞き取り勘案し、時にはご家族様の意向を確認したり相談もしながら、本人様が安心して生活が送れるよう配慮している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の状況、関係者から情報を頂き職員間で情報共有行っている。新たな情報があればその都度共有するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録にその時の状況、対応などを記録し職員間で把握出来るよう努めている。状態変化あれば、管理者、医師などへの報告、対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状態変化などあれば、モニタリング・アセスメントをし職員への聞き取りや必要時のカンファレンスを行っている。職員からの支援内容への意見を聞きながら介護計画の作成を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録で日々の状態把握とどのような支援を行ったか記録をしている。その記録を確認し、新たにニーズが発生していれば計画し実施できるよう対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	往診、歯科往診への対応必要時の受診、理容サービスへの対応などコロナ禍でもできる範囲でサービス対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍でもあり、地域との触れ合いが困難な状況であるが今後は、安全を考慮し外出計画など立てていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の往診が定期的であり、ご家族様の了承のもと診察を受けている。又希望の医療機関にも受診・往診などにも対応できるようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に週1回来てもらい利用者様の健康チェック、相談をしてもらっている。現状報告し可能な対応をしてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時での情報提供と必要であれば入院先からの問い合わせ対応を行っている。退院時の情報を頂き退院時での留意点などの問い合わせを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取り指針の説明をして、希望を聞いている。又、かかりつけ医とも相談をし、必要に応じて説明をして頂くようになっている。看取りを希望されている方には、主治医と連携をとりながら、看取りの介護計画を作成している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、入居者の急変時、事故発生した場合には速やかにかかりつけ医、看護師に指示を仰ぐよう職員に周知している。対応・処置が完了後は要点や根拠などの説明・指導を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防訓練、年1回、水害訓練を行っている。非常時には、訓練通りにいかない事が多々あると思い、訓練では、前回の反省を活かし、取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格を把握し、落ち着ける声かけができるよう心掛けている。日常的に趣味等を取り入れ、思い思いに生活を送っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	水分提供やおもてなし時は利用者様に選んで頂いたり食べたい物を聞いたり出来るだけ望まれているものを提供している。レクリエーションでも本人様がやりたいことを聞き、行事として組み入れている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々に希望される事が違うが、意に沿えるよう個別にレクリエーションをして頂いたり、職員間で決まりを作ったりせず利用者様優先で日常生活のサポートを行うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に一度訪問理容に来て頂き、カットして頂いている。入浴や洗顔後化粧水を付ける事が日課になっている方は、化粧水が無くなればご家族様に連絡している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手作りの日等、利用者様にあつた事を無理なく手伝って頂いたり、食べたいもの等聞き入れ喜んで頂けるよう努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師の指示のもと、利用者様の心身状態を考慮した食事量、水分量を提供し、記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけしなるべく自力で口腔ケアを行って頂き、困難な方は介助にて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりに応じた声掛け、誘導又介助が必要な方には個人の能力を活かす介助を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄はトイレを基本とし、パターンを把握して声かけや誘導をしている。未排便が続く時は、バナナや牛乳等提供し調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決めているが拒否があった場合は理由を聞き別日対応する等工夫し気持ちよく入浴をして貰える支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休みたい時に休んでもらったり、体調を考え休息の時間を作っている。夜間帯は就寝時間が異なっているが安心して夜間睡眠が取れるよう、静かで快適な空間を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医、薬剤師から薬の説明をして貰っている。変更などがある場合は、職員間で情報提供している。小さな変化も往診時につたえている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせた作業をして貰ったり、毎月イベントを企画し楽しみにしてもらえよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍であり、外出が難しい為ベランダでおやつを食べたり、感染対策をしっかり行いドライブをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望により、お金を持っている方もおり、時々数えて過ごされている。安心して過ごされているので尊重している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様からの要望はないが、ご家族様から届いた手紙やプレゼントを渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月イベントや季節に応じた飾りつけを利用者様と一緒に作ったり、飾ったりしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆっくりテレビを見たり、休息のためソファで休んで頂いたり、自由に玄関で日光浴が出来るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を希望があれば使用してもらっている。写真やカレンダー等を飾り自分好みの部屋をつくれるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力を共有し、出来る事は見守り、安全にできるようにしている。		